



四万十町
町内「ふら〜り」散策

小 向

こ むかい

開拓整備される以前は住居の有無などの記録もはっきりしたものがないので、村として歩き始めたのはそれ以降であろう。ただ、独立した村としての歩みはさらに後年となる。江戸時代後期にまとめられた地誌によれば、寛保年間(徳川吉宗Ⅱテレジでおなじみの暴れん坊將軍の時代)には戸数5、人口21とあるが、六反地村とともに加江(替)坂本村の枝村となつてゐる。六反地村が加江坂本村の枝村であることは地理的に理解できるが、小向村の場合、加江坂本村が

小向地区は江戸時代に入った承応年間(1652〜55)に開発された。第2代藩主山内忠義による藩政改革が行なわれた頃である。家老・野中兼山の補佐役として信頼の厚かつた小倉少助・三省親子によつてこの地が開拓整備され、現在の小向地区の礎が築かれた。

小向地区は、先月号で紹介した向川地区の北側に隣接してゐて、両地区の間には東又川が流れる。「向」という文字が共通で、しかも隣接する地区であるが、向川地区は東又に、小向地区は仁井田に含まれる。国道56号からは、平串から仁井田・影野方面に向かつてひとつ坂を越えた最初の信号を右折して東又方面へ県道52号を行く。ほとんど高知道の下をくぐるのだが、くぐつたところからが小向地区である。



菅原道真を祀る天満宮

らは離れ過ぎてゐる。これについては当時の支配者たちの「分配の都合」がそうさせたのであろうと推測できる。当時の仁井田郷(旧窪川町一帯)において、飛び地支配といふのはさほど珍しいことではなかつたが、これほど離れた飛び地は他に見当たらない。

ところでこの地の支配者であるが、山内家の家臣・小森喜八郎という人物とその他に2名いたとされる。その一人を吉村伝丞という。おそらくこの吉村家だけが後々までこの地を離れなかつたのではないかと推測される。現在、小向地区で21世帯、45人が暮らしているのだから、21世帯のうち実に14世帯が吉村姓なのである。

氏神様は菅原道真を祀る天満宮で、地区の先人を祀る「若宮様」と並んで鎮座してゐる。

町のうごき						適正值(mg/l)		9月8日	
(8月31日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出			
男	8,467	-10	男 3	18	16	12	リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下
女	9,446	-14	女 6	21	20	18	硝酸	≤ 0.5	測定範囲以下
計	17,913	-24	計 9	39	36	30	アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
世帯数	8,643	-13	(8月中の届出)				アニオン活性剤	≤ 1.0	0.05
窪川地域	12,551人	大正地域	2,571人	十和地域	2,791人	化学的酸素要求量	≤ 10.0	測定範囲以下	

四万十川の
水質状況

調査：大正(吾川)
資料：四万十高校自然環境部